

高 伊那北高校同窓会報

発行
伊那北高等学校同窓会
TEL 0265(72)7312
FAX 0265(76)5585
http://www16.ocn.ne.jp/~inakita/
印刷 (有)マスマタ印刷

歴史と伝統を貫くもの

同窓会会長 北原明



冒頭から私事にわたり恐縮ですが、肉親の死去のあと蒼惶のうちに年末をやり過ごし、気が付いたら新年を迎えています。

俳人高浜虚子によく知られた「去年今年貫く棒の如きもの」なる俳句があります。年末からの自分のいたらくを振りかえれば、「到底「貫く棒」

などという実在はありませんし、信念とか信仰とかも怪しいものですが、翻って我輩ヶ岡に「貫く棒」があるとするれば、それは何なのか？——そういう問いかけは可能です。ただその場合、去年今年という短いスパンではなく、東京オリンピックが開かれる年に開校百周年を迎える歴史を通じて存在し続けてきた「貫く棒」があるとするれば、それは何か？校章に込められた「ペンは剣より強し」の精神でもあり、校歌の「雄心強く振りおろし、天真の姿あらわして」に象徴される「志の高さ」でもある、と言って間違いでは

ないように思いますが、同窓各位はどうお考えでしょうか。ほかに「質実剛健」とか「文武両道」を挙げることも出来ましようが、旧制中学の男子校なら当然だったが、女子生徒が半数を超えた現在では状況は違ってしまったというとの反論もあるでしょう。虚子の個人的感懐は別にして主観的解釈を試みました。

私は以上の前提をしつつも、「貫く棒」にもう一つの柱を付け加えたい気がしています。それは平和という言葉の重みと言うか、一貫した祈りと言うか、それを抜きにしてはならないという思いからです。かつて本校創立七十五周年事業として、同窓生戦没者二百三柱の銅板芳名簿作成（現在会館に保存）と「平和の礎」（会館南側）建立が執り行われました。戦場に散った、或いは戦病死した同窓生への鎮魂の祈りがあり、そこ

伊那北高等学校同窓会

平成二十六年度 定期総会のご案内

長野県伊那北高等学校同窓会の平成二十六年度定期総会を左記により開催いたします。

記

▼日時 平成二十六年六月十四日(土)
午後一時～四時

《受付》午後十二時三〇分より

▼会場 伊那市生涯学習センター 六階ホール

▼催物 講演会

講師：藤田保健衛生大学付属病院 副院長
湯澤 由紀夫 先生(高26)

▼総会

議題

- (一) 平成二十五年度会務報告
- (二) 平成二十五年度会計決算報告
- (三) 平成二十六年事業計画審議
- (四) 平成二十六年予算審議
- (五) 役員改選
- (六) その他

▼懇親会 総会終了後 伊那市生涯学習センター五階にて

※皆様お誘い合わせて是非ご出席ください。

同窓会会長 北原明

には平和を揺るぎない「貫く棒」があると思います。「平和の礎」には「平和の礎」となりし御魂よ、帰りに給え、鎮まるといいます。昨年、は学徒出陣七十周年の年でした。この碑銘は、戦後史の一大転換期にさ

しかなかった今痛切に響いてきます。

同じ虚子の句に「春風や闘志いだきて丘に立つ」があり、また後輩たちが闘志を胸に薫ヶ丘に立ち新鮮な生命の息吹を吹き込んでくれることでしょう。